

加藤 昭彦

高松市副市長・高松市社会福祉協議会会長

加藤 昭彦



誰かを幸せにして初めて、

自分も幸せになれる

誰かの役に立ちたいと
市役所への入庁を決意

大学時代は、真面目な学生でした。私はいわゆる苦学生で、学業とアルバイトを両立させることに精一杯。唯一の楽しみは、体育の授業のバスケットボールで、これだけは絶対に休まずに行っていました(笑)。あまりにも楽しく、社会人になってからも社会人チームでプレイするほどでした。ゼミでは交通政策を学び、主にデマンドバスやバスロケーションシステムについて研究。高松市は、鉄道もバスもあって、交通網の整備が課題でしたので、大学で学んだことが仕事の役に立っていると感じる場面が何度もありました。

高松市役所への入庁を決めたのは、人の役に立つ仕事がしたいと思ったから。最初に配属されたのは、議員さんの仕事の補佐をする市議会事務局でし

た。ここには14年間いましたが、市がやっていることが本場に市民の役に立っているのか、常にチェックしながら仕事を進める姿勢が身につきました。この姿勢は、今も私のなかに生き続いています。その後、企画課長や市民政策局長を経て、平成26年に副市長に。自治体を取り巻く環境が厳しくなり、非常に数多くの政策課題を抱える中で、市長をサポートするのが副市長の仕事です。市役所の各課から上がってくる様々な案件を精査し、市長がより良い意思決定ができる状況を作り出すのが主な業務。また市長の代理として様々な会議や行事に出席するのも大切な業務です。

今は誰かに支えられていても、将来誰かを支える人になってほしい

私は副市長の仕事とは別に、高松市社会福祉協議会の会長を務めています。社会福祉協議会は、高齢者、生活困窮者、そして子どもや障害者が幸せに暮らしていけるように支援をする法人組織。コロナ禍以降、高松市社会福祉協議会のフードバンク事業の一環として、様々な理由から廃棄しなくてはならない野菜や果物を青果関係の卸売業者から引き取り、香川大に届ける活動を行っています。当時、コロナ禍で打撃を受けた会社やお店には公的な支援がありました。学生さんの実態がなかなかつかめず、支援が行き届かない状態で

渡っています。厳しい財政状況ではありませんが、「選択と集中」の考え方に基づき、ひとつずつ確実に課題を解決していきたいです。

した。香川大がコロナ禍に実施した学生アンケート調査も見せてもらいましたが、そこには「アルバイト先がなくなって生活費が稼げず、このままでは大卒に通えなくなるかもしれない」「実家の家業がダメになってしまい、奨学金だけでは通うのは難しい」という悲痛な声が。どうにか役に立ちたいと思ったのが、この活動をはじめたきっかけです。卸売業者も「廃棄野菜をどうにか活用できないか」と考えており、うまくマッチングができた事例となりました。

この活動は現在も続いています。学生さんに喜んでいただけているように

この仕事のやりがいは、やはり市民の方に喜んでいただけること。「これは本当に、市民のためになるのだろうか」と思いながら事業を進めることもあり、イベントなどに出向いた際に、皆さんが喜んでいて姿を見ると「やってよかった」とうれしくなります。一方で難しいと感じるのが、市が関わる分野が広いこと。福祉、商業、農業、教育、都市整備など、非常に多岐に

副市長を退職した後は、現在行っているひとり親家庭の支援など様々なボランティア活動に専念します。



副市長を退職した後は、現在行っているひとり親家庭の支援など様々なボランティア活動に専念します。

高松市副市長・高松市社会福祉協議会会長

かとうあきひこ
加藤 昭彦

香川県高松市出身。経済学部のOB。1978年、高松市役所に入庁。環境部、企画財政部、市民政策局などを経て、2014年、高松市副市長に就任。2019年から、社会福祉法人高松市社会福祉協議会の会長も務めている。趣味は旅行、スポーツ観戦、音楽鑑賞。カマタマール讃岐は地域リーグのころからずっと応援している。